



緩和ケア内科新体制のご紹介

緩和ケア内科部長 なか じま 中島 ごう 豪



昨年11月より東京都健康長寿医療センター緩和ケア内科に赴任いたしました中島豪と申します。がんによる症状は多岐にわたります。緩和ケア内科では、痛みや呼吸苦、倦怠感などのがんによる症状に対応するだけでなく、抗がん治療によって生じた有害事象への対応も行っています。これらのがんやがん治療による症状の緩和は、生活の質を保つだけでなく、積極的抗がん治療にしっかりと向き合うためにも、より早期から行うことが基本とされるようになってきました。しかしながら、患者さんやご家族にとって「緩和ケア」はまだ「末期の医療」とのイメージが色濃く残っていることは多く、なかなか受診までハードルを高く感じていらっしゃる方も多いのが実情です。

地域の先生方におかれまして、このようながんや治療に伴う症状にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ「早期からの緩和ケア」をご提案いただき、当科へご紹介をいただけますと幸いです。外来での医療用麻薬処方をはじめとした症状緩和のためのお手伝いだけでなく、より強い症状となり入院が必要となった場合に緩和ケア病棟での緩和治療 / 緩和ケアの提供をいたします。

これからも板橋区をはじめとした近隣の地域医療を支えていただいている先生方、看護師や薬剤師の皆様、ケアマネジャーの皆様と、密な連携や協力体制を築き、患者さんが最期の時までその人らしく過ごしていけるようお手伝いをしてまいります。

これからも緩和ケア内科へのご指導ご支援ならびにご協力を賜れますと幸いです。

緩和ケア内科の外来には、外来通院で症状緩和治療などを行う「緩和ケア内科外来」と、将来病状が変化したときに緩和ケア病棟への入院を希望される方への相談および登録を行う「緩和ケア病棟入院相談外来」があります。いずれも下記お問い合わせ先までご相談ください。

がん相談支援センター TEL:03-3964-5964(直通) 平日 9時~16時



アルツハイマー病新薬・ レカネマブについて解説します

副院長（脳神経内科部長（診療科長）兼務） 岩田 淳



10月より荒木副院長の後任として就任いたしました。岩田淳と申します。専門は脳神経内科です。当センターには2020年4月より勤務しております。当科では脳卒中、パーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん、頭痛といった非常に患者数の多い疾患から神経難病の様に患者数は少ないながら専門性の高い疾患まで幅広く診療しています。私自身の外来に初診される患者さんの多くは歩行の障害、もの忘れといった御訴えでいらっしゃいますが、診察力、様々な検査を組み合わせて正確な診断と最適な治療方法のご提案が出来るように日々精進しております。近隣の先生方と一体となって地域の医療を支えて参りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。もちろん副院長として病院全体、脳神経内科に限らない疾患の受け入れ、連携にも尽力して参ります。

アルツハイマー病新薬・レカネマブ

さて、私の副院長就任と時を同じくしてレカネマブ（販売名：レケンビ®）という新しい認知症の薬が製造販売承認されたというニュースが大きく取り上げられたことを覚えておられるでしょうか。今回はそれについて解説させていただきます。

アルツハイマー病の患者さんの脳の中にはアミロイド・ベータというものが蓄積しています。それを取り除く事の出来る薬剤が抗アミロイド・ベータ薬であるレカネマブなのです。アミロイド・ベータは神経細胞が活動するときに作られるゴミのようなものです。正常な脳ではせつせとゴミ処理できるので溜まることはないのですが、アルツハイマー病の脳ではゴミ処理ができずに溜まっていきます。その状態が10年、20年続くと神経細胞にダメージが蓄積して働きが悪くなったり神経細胞自体が死んでしまったりしてアルツハイマー病の症状が出るのです。この度発売されるレカネマブという薬はその溜まったアミロイド・ベータを取り除く目的で作られ、一定の効果が認められたために販売までこぎ着けたという訳です(図)。



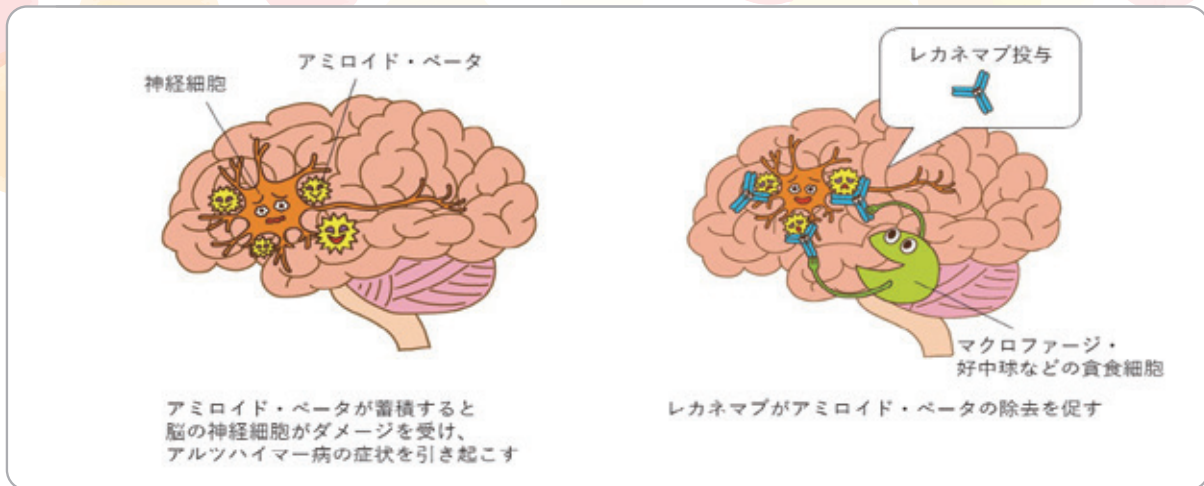


図 レカネマブが作用する仕組み

レカネマブの投与対象は？

さて、このレカネマブは認知症なら誰にでも使えるものなのでしょうか。実はそう簡単なことではありません。認知症の原因は様々で、この薬はアミロイド・ベータが蓄積するアルツハイマー病でしか効果が期待できません。このために投与前にアミロイド・ベータが蓄積しているかを検査で確認する必要があります。また、この薬の効果はそもそも認知症というよりその前段階の患者さんの方が効果が高い事が知られています。そのため、投与にあたっては認知機能の低下がまだ『軽い』事が前提になります。

レカネマブを用いた治療の注意点

このレカネマブは、点滴で投与する薬ですが、2週間に一度1時間かけて点滴する必要がある、通院のご負担の事も考えて頂く必要があります。

大きな問題として効果の実感が得られないという点があります。この薬はアルツハイマー病の進行を『ゆっくり』にはしてくれますが、『止めてはくれません』ので、効果を大きく実感する事も難しいかもしれません。さらに副作用として脳がむくんだり、脳出血を引き起こしたりすることが知られているため、それらのリスクが高そうな患者さんには投与はお勧めできない場合があります。

ただし、今まで有効な手段が少なかったアルツハイマー病によりやく『戦える』様になったことは大きな科学の進歩である事は間違いありません。当センターでのレカネマブを用いた治療について、受診から投与までの流れは以下ホームページをご覧ください。

上部内視鏡検査のご予約が始まりました

「C@RNA Connect」のご紹介

「C@RNA Connect」とは…

インターネットのウェブブラウザ（インターネットエクスプローラやクローム）で、MRI、CT、PET等画像診断や診療予約を24時間いつでも予約可能なシステムです。（※利用にはご登録が必要です。）

事前手続きについて

センターホームページの「地域連携 C@RNA Connect 新規申込書」に必要事項をご記載、ご捺印の上、医療連携係にご郵送ください。

<https://www.tmg Hig.jp/hospital/community/carna-connect/registration/>

HOME>地域連携>C@RNA Connectのご紹介>新規登録のご案内



在宅医療連携病床へのご入院について

患者さんが在宅での生活を継続するため、訪問診療医からの要請のもと、一時的（原則として2週間以内）に、ご入院を受入れさせていただきます。

老年症候群による低栄養、褥瘡、摂食・嚥下機能等の評価や罹患している病気の現状評価を実施します。そのほかにも全身状態を把握するためのCT等の画像検査や生理機能検査、内視鏡検査等の評価目的のご入院もお受けしております。なお、病状評価の結果、専門的な治療が必要な場合には、専門となる診療科へご紹介させていただきます。また、介護者の体調不良や不在時におけるレスパイトケアでのご入院も対応しております。

ご入院をご希望される場合は、医療連携係までご連絡ください。ご依頼の概要をお伺いしたのち、診療情報提供書（紹介状）及び検査データ等をFAXいただき、ご入院へ向けての準備を進めてまいります。

栄養指導外来のご依頼について

連携医の先生が糖尿病や高血圧、脂質異常症等の生活習慣病治療において、管理栄養士による栄養食事指導が必要と判断された患者さんを対象に以下の内容で栄養指導外来を開設しております。

- ・指導回数は2～3回程度を目安としております。
- ・指導終了後、指導内容について連携医の先生にご報告いたします。
- ・保険診療の範囲内での指導を想定しています。

ご利用にあたっては、事前のご予約が必要です。医療連携係までご連絡ください。

各種お問い合わせ先

◆脳卒中ホットライン

TEL: 080-4116-1141 (直通)

脳神経外科医（夜間・休日は神経系当直医）が直接お電話をお受けいたします。

脳卒中の発症が疑われる場合にご活用ください。

◆緊急受診・緊急入院のご相談

TEL: 03-3964-1141 (代表)

原則として、各診療科の連携当番医が直接お電話をお受けいたします。電話交換手へ

『緊急受診（入院）の依頼です。〇〇科の連携当番医につないでください』とお話してください。

医師が直接お電話で病状等のお聞き取りをいたします。

◆東京都健康長寿医療センター

地域連携課 医療連携係

受付時間（月～金） 9:00～17:00

TEL: 03-3579-6963 (直通)

FAX: 03-3964-1392 (直通)